



Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

XCP 1060 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-4939-10
2008 年 4 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
最新の Solaris パッチの入手	viii
Update Manager GUI を使用したパッチの入手	viii
smpatch CLI を使用したパッチの入手	x
追加情報	xii
マニュアルへのアクセス	xii
コメントをお寄せください	xii
Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
Solaris パッチに関する情報	2
Solaris パッチのインストール	2
既知の問題	3
一般的な機能の問題と制限	3
ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題	4
問題と回避方法	4
ハードウェアマニュアルの変更予定	5

コンポーネントの底面図 6

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題 9

XCP に関する特定の問題と回避方法 9

Solaris に関する特定の問題と回避方法 11

ターゲットボードのカーネルメモリの識別 19

XCP 1050 以降へのアップグレードの準備 20

XCP 104x から XCP 1050 以降へのアップグレード 22

WAN ブートサーバからのブート 27

getflashimage の簡易版 man page 27

ソフトウェアマニュアルの変更予定 28

はじめに

本書では、マニュアルセットを発行したあとに既知となった、Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびマニュアルに関する重要な最新情報について説明します。

技術サポート

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルに記載されていない技術的な質問または問題については、購入先に問い合わせてください。

米国またはカナダのユーザーの場合は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に問い合わせてください。

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

最新の Solaris パッチの入手

使用しているシステムには、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ用の Solaris 必須パッチがプリインストールされているはずですが、使用しているバージョンの Solaris OS で必要なパッチの一覧については、2ページの「[Solarisパッチに関する情報](#)」を参照してください。

注 – Solaris 10 11/06 OS が動作している Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでは、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ [123003-03](#) および [124171-06](#) をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。これらのパッチは、Solaris 10 8/07 OS が動作しているサーバでは必要ありません。

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールしたり、最新の必須パッチセットでシステムを更新することができます。Sun Connection Update Manager の詳細は、次の Web サイトにある『Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイド』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7283>

または、次の URL にアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

使用しているシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して、最新の Solaris OS パッチを入手するには、2つのオプションを使用することができます。ダウンロードしたパッチには、インストール情報および README ファイルが含まれています。

- viiiページの「[Update Manager GUI を使用したパッチの入手](#)」
- viiiページの「[Update Manager GUI を使用したパッチの入手](#)」

Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. Update Manager を起動します。

- 「JDS Launch」メニューで、「Launch」->「Applications」->「System Tools」->「Update Manager」の順に選択します。
- 端末ウィンドウで CLI を使用して、`/usr/bin/updatesmanager` と入力します。
 - a. **すでに登録が完了している場合は、手順 2 に進みます。**
 - b. **まだ登録が完了していない場合は、Update Manager によって登録手続きに進みます。画面上の指示に従います。**

注 – Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバで、Sun Connection Update Manager GUI が正常に登録できなかった場合は、コマンド行 (CLI) インタフェースのオプションを使用してパッチを入手してください。xページの「[smpatch CLI を使用したパッチの入手](#)」を参照してください。

2. Update Manager の「Available」タブで、「Update Collection」ドロップダウンメニューを開き、「Sun SPARC(R) Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers」を選択します。

Update Manager によって、必要となるパッチを判断するためにシステムが分析されます。

3. パッチ 118833-xx が推奨される場合、パッチ ID の左にあるボックスをクリックしてこのパッチ ID を選択してから、「Install」ボタンをクリックします。

パッチが /var/sadm/spool にダウンロードされます。

注 – 118833-xx はカーネルパッチで、インストールする際に特別な手順を必要とします (仕様については、パッチの README を参照)。このため、118833-xx は手動でのインストールが必要なダウンロードのみの対話型パッチです。パッチセットの残りのパッチをインストールするには、パッチ 118833-xx を最初にインストールすることが重要です。

4. 次のように入力して、処理を続けます。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip 118833-xx.jar
```

5. /var/sadm/spool/118833-xx/README.118833-xx ファイルに記載されているインストール手順を実行します。

6. 118833-xx のインストール後、システムを再起動します。

init コマンドまたは shutdown コマンドを使用します。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

注 – reboot コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。Update Manager、init コマンド、または shutdown コマンドのいずれかを使用してください。

7. Update Manager をふたたび起動して、Enterprise Server コレクションを選択します。
8. Update Manager が新たな分析を自動的に開始しない場合は、「Check for Updates」ボタンをクリックします。
9. パッチ ID の左にあるボックスをチェックして、一覧に表示されているパッチのいずれかを選択します。
10. 「Install」ボタンをクリックします。
Update Manager によって、パッチがダウンロードおよびインストールされます。

注 – 再起動を必要とするパッチがインストールされた場合、UM によってシステムの再起動が行われます。または、手順 6 で使用したように、shutdown または init を使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、パッチが実質的にインストールされるには再起動が必要です。

11. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、手順 6 を参照します。
これでパッチのインストールが完了しました。

smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. /usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。
2. /tmp/RegistrationProfile.properties ファイルを編集して、ユーザー名およびパスワード、必要に応じてネットワークプロキシおよびポートを追加します。

注 – ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

3. 次のコマンドを入力して、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力して、使用しているシステムに適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem4k5k8k9k
```

5. 次のように、パッチ 118833-xx をインストールします。

このパッチは、Sun Connection Update Manager を使用してダウンロードできません。

a. 次のように入力して、/var/sadm/spool ディレクトリにパッチをダウンロードします。

```
# smpatch update -i 118833-xx
```

b. 次のように入力して、パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip 118833-xx.jar
```

c. /var/sadm/spool/118833-xx/README.118833-xx ファイルに記載されている特有のインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. パッチ 118833-xx のインストール後、システムを再起動します。

- システムを再起動するには、init コマンドまたは shutdown コマンドのいずれかを使用してください。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

注 – reboot コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。

7. 次のコマンドを入力して、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力して、パッチをダウンロードおよびインストールします。

```
# smpatch update
```

9. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、手順 6 を参照します。

これでパッチのインストールが完了しました。

追加情報

詳細情報については、最新の『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』に加えて、使用している Solaris マニュアルとともに提供されるリリースノートを参照してください。また、マニュアル Web ページにアクセスして、本書を補足する追加のマニュアルがないかどうかを確認してください。最新情報は、次の URL から入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

マニュアルへのアクセス

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの設置、管理、および使用に関する手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットに記載されています。次の Web サイトから、マニュアルセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

注 – 本書に記載されている情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) のマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート XCP 1060 版』、
Part No. 820-4939-10

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

本書は、次の項で構成されています。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- [Solaris パッチに関する情報](#)
- 既知の問題
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ハードウェアマニュアルの変更予定
- ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題
- ソフトウェアマニュアルの変更予定

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次に示すバージョンのファームウェアおよびソフトウェアがサポートされています。

- XSCF Control Package (XCP) 1060 以降。
- これらのサーバは Solaris 10 8/07 OS 以降をサポートしています。
- これらのサーバをサポートしている Solaris OS は、Solaris 10 11/06 OS 以降とパッチです。2 ページの「[Solaris パッチに関する情報](#)」を参照してください。

注 - 今後追加される Capacity-On-Demand (COD) 機能を使用するためのライセンス (RTU) に対応するには、すべての SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバを XCP 1050 以降にアップグレードする必要があります。お近くのサービス担当員にお問合せください。

ネットワーク上の Solaris WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバをブートする場合は、実行可能ファイル wanboot をアップグレードする必要があります。詳細については、27 ページの「[WAN ブートサーバからのブート](#)」を参照してください。

注 - サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョンに関する最新情報については、vii ページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照してください。

Solaris パッチに関する情報

次に示すパッチは、Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに必須です。Solaris 10 8/07 OS を実行するサーバの場合、これらのパッチは不要です。

注 - パッチの下 2 桁は、リビジョンレベルを示しています。SunSolve.Sun.COM で最新のパッチリビジョンを確認してください。最新パッチを探す方法については、vii ページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照してください。

Solaris パッチのインストール

- 次の順序でパッチをインストールします。
 1. [118833-xx](#) (最小リビジョンは -36 です。次へ進む前にドメインをリブートしてください。)
 2. [125100-xx](#) (最小リビジョンは -10)
その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
 3. [123839-xx](#) (最小リビジョンは -07)
 4. [120068-xx](#) (最小リビジョンは -03)

5. 125424-xx (最小リビジョンは -01)
6. 118918-xx (最小リビジョンは -24)
7. 120222-xx (最小リビジョンは -21)
8. 125127-xx (最小リビジョンは -01 です。次へ進む前にドメインをリブートしてください。)
9. 125670-xx (最小リビジョンは -02)
10. 125166-xx (最小リビジョンは -05)

既知の問題

ここでは、本リリース時における既知のハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。

一般的な機能の問題と制限



注意 -Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、表 4, 11 ページの「[Solaris の問題と回避方法](#)」を参照してください。

- 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP カードの場合、次の制限事項が適用されます。
 - 使用できるカードはドメインあたり最大 2 枚
 - これらのカードを PCI ボックスで使用しない
- 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードの場合、次の制限事項が適用されます。
 - 1 つの PCI ボックスで使用できるカードは最大 2 枚
 - 1 台の SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバで使用できるカードは最大 8 枚
- 1 ドメインの IOUA カードの最大数は 6 枚です。1 つのドメインに対して構成されている SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに 6 枚を超える IOUA カードを取り付けしないでください。
- ターゲットドメインの OpenBoot PROM ファームウェアの更新を完了するには、ドメインの電源を必ずオフ / オンしてください。

- Solaris OS がシングルユーザーモードの場合、ドメインコンソールから XSCF Shell に切り替えないでください。Solaris OS がマルチユーザーモードに切り替わる場合があります。
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- XSCF Web ブラウザインターフェースは (ブラウザインターフェース (BUI) とも呼ばれる)、PCI ボックスマネージャ機能をサポートしていません。
- XSDF Web ブラウザインターフェースは (ブラウザインターフェース (BUI) とも呼ばれる)、COD 構成に関する新しい機能をサポートしています。
- 次のユーザーアカウント名は、XSCF ファームウェアによりシステム用として予約されているため、使用できません。root, bin, daemon, adm, operator, nobody, sshd, rpc, rpcuser, ldap, apache, ntp, admin、および default.
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun Blueprint のマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>)』を参照してください。

ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題

ここでは、ハードウェア固有の問題とその回避方法について説明します。

問題と回避方法

表 1 に既知のハードウェアの問題と実行可能な回避方法について説明します。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	変更箇所	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールが Mailbox timeout または IOCB interrupt timeout error を表示することがあります。	OBP (OK) プロンプトから <code>reset-all</code> コマンドを発行し、リブートしてください。

表 1 特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6488846	ブート中、ドメインコンソールが SG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSI コントローラ I/O カードの checksum error を表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

ここでは、マニュアルが出版された後に判明したハードウェアの最新情報を示します。

表 2 マニュアルの変更予定

タイトル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのマニュアル		DVD という表記は、CD-RW/DVD-RW と読み替えてください。 以下の用語の定義が更新されています。 PCI ボックス - PCI スロットを増設するための外付けデバイス。PCIe 接続経由でシステムの I/O ユニットに接続され、1 つまたは 2 つの I/O ポートを持つ。 I/O ポート - PCI ボックス内の I/O ユニット。I/O ポートは、PCI-Express (PCIe) スロットに、I/O ポート上の PCIe switch または PCI-X bridge を介して接続し、6 つの PCI-X スロットまたは 6 つの PCIe スロットのいずれかを提供する。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-8	表 1-1 「メインユニットの仕様」 メインストレージ (メモリモジュール) の 8GB DIMM 搭載時の最大キャパシティが記述されていますが、現時点では 8GB DIMM は搭載できません。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-21	1.3.3 「I/O ユニット」 LAN ポートの種類について「1000BASE-T/100Base-TX/100Base-T」と記述されていますが、正しくは「1000Base-T/100Base-TX/10Base-T」です。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-26	1.5.3 「SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) オプション」 メモリ容量について「最大 2B」と記載されていますが、正しくは「最大 2TB」です。 ただし、ここに記述されているメモリサイズは 8GB DIMM 搭載時の最大キャパシティですが、現時点では 8GB DIMM は搭載できません。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画 マニュアルの訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の情報よりも優先されます。

コンポーネントの底面図

次の図は、1.2.2.2 「コンポーネントの底面図」の項の説明を訂正するものです。

図 1 に SPARC Enterprise M8000 サーバと電源筐体の底面図を示します。

図 2 に SPARC Enterprise M9000 サーバ（基本筐体）と電源筐体の底面図を示します。

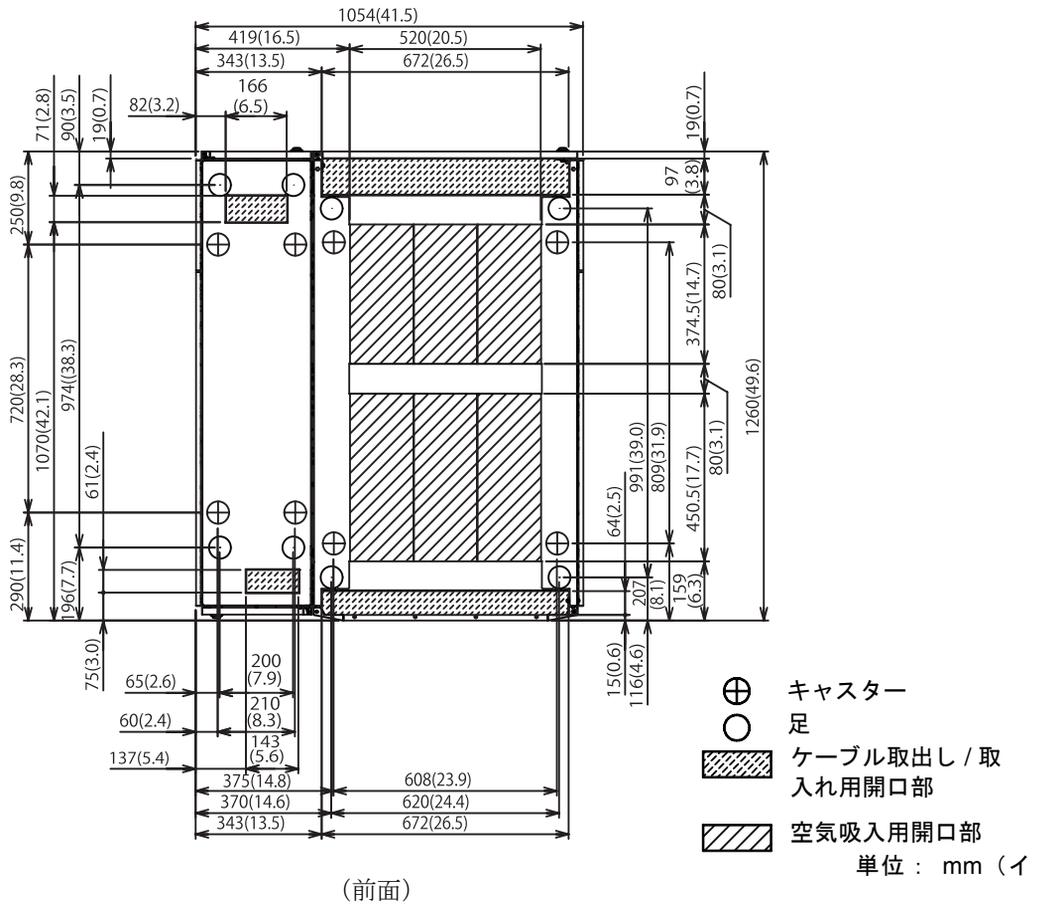


図 1 Sun SPARC Enterprise M8000 サーバ+電源筐体の装置底面図

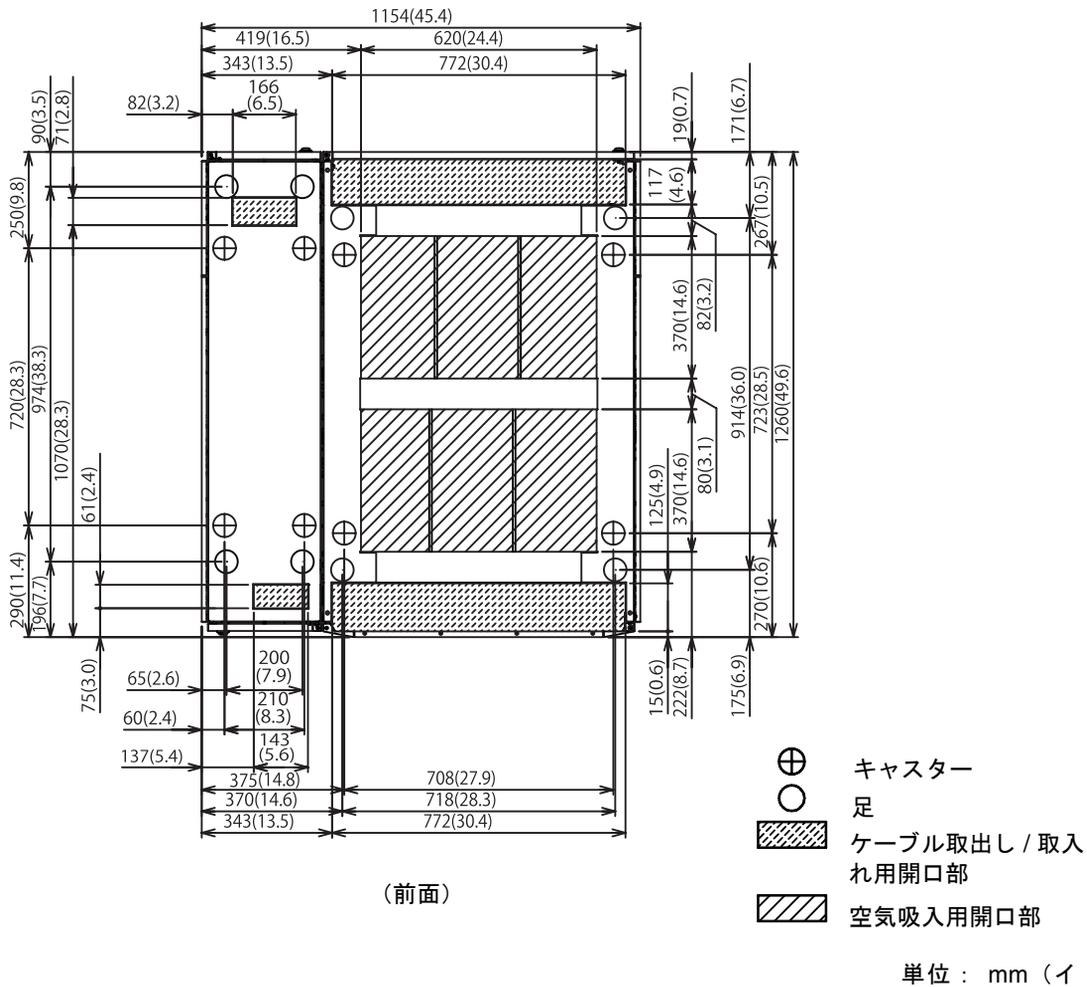


図 2 SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体) + 電源筐体の装置底面図

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアに関する問題とその回避方法について説明します。

XCP に関する特定の問題と回避方法

表 3 に XCP に関する問題とそれに対する有効な回避方法を示します。

表 3 XCP に関する特定の問題と回避方法

ID	変更箇所	回避方法
6565422	showarchiving の Latest communication フィールドが定期的に更新されません。	アーカイブの有効 / 無効を切り替えると、showarchiving 出力の Latest communication フィールドが更新されます。
6575425	通常、待機 SCF 上で SCF CLI が実行されると、「Permission denied」が表示されますが、これが表示されずに、他のエラーが通知されます。	待機 XSCF 上で実行できる CLI は下記に限定されています。snapshot、switchscf 待機 XSCF 上ではそれ以外の CLI を実行しないでください。
6575771	XCP 104x から新しい XCP バージョンにアップグレードするとき、サービスタグが有効になりません。	Sun のお客様が XCP 104x から新しい XCP バージョンにアップグレードするとき、platadm 権限で次のコマンドを実行して Sun のサービスタグを有効にする必要があります。 XSCF> setservicetag -c enable 富士通のお客様がサービスタグを有効にすることはできません。 詳しくは、次の URL を参照してください。 http://www.sun.com/bigadmin/hubs/connection
6577801	不正なドメイン状態が報告されます。コマンド sendbreak がドメインに発行された後、ドメインが「ok」プロンプトになると、showdomainstatus によりドメイン状態が「Running」と表示されます。	回避方法はありません。sendbreak の使用による副作用です。
6583053	XCP 1040 と 1041 でセットアップに誤りがあると、後続の XCP バージョンで引継ぎ IP が機能しないことがあります。	20 ページの「 XCP 1050 以降へのアップグレードの準備 」を参照してください。

表 3 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

ID	変更箇所	回避方法
6588650	XSCF のフェイルオーバーまたは XSCF のリブートの後、システムの DR が不可能となる場合があります。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6589870	32 文字で構成されているユーザーアカウント名は「Permission denied」と表示されます。	XSCF のユーザーアカウント名の設定には最大 31 文字を使用できます。
6590920	CLI 「showldap 膨 (現在の LDAP 証明書を表示する)」が正しいデータを表示するのは、最初に「setldap 膨」を使用して証明書情報を提供したのと同じユーザーアカウントを使用した場合だけです。それ以外のユーザーアカウントは、「Permission denied」エラーを生成します。同様に、異なるユーザーアカウントを使用した場合は、XSCF Web の LDAP 構成ポップアップ画面にデータが表示されません。	CLI と XSCF Web の両方で、すべての LDAP 表示処理および構成処理に対して同じユーザーアカウントを使用してください。
6598444	XSCF ファームウェアは自らを監視し、不整合が検出されると XSCF を強制的にリブートします。	回避方法はありません。XSCF ユニットにリブートを完了させます。約 5 分以内で通常の動作に戻ります。
6624646	Sun Connection Update Manager GUI の登録に失敗した可能性があります。	GUI の登録に関する問題が発生した場合は、コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。
6626183	Internet Explorer 7 のブラウザを使用する場合は、BUI COD ページでライセンスキーの削除を実行できません。	他のブラウザを使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 6.0 • Firefox 2.0 以降 • Mozilla 1.7 以降 • Netscape Navigator 7.1 以降

Solaris に関する特定の問題と回避方法

表 4 に Solaris に関する特定の問題とそれに対する有効な回避方法を示します。

表 4 Solaris の問題と回避方法

CR ID	変更箇所	回避方法
5076574	大規模な M9000/M8000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になる場合があります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6303418	1 つの SPARC Enterprise M9000 のドメインに対し、完全搭載のシステムボードが 11 枚以上ある場合、ストレスが高い状況ではハングアップする場合があります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。 Solaris OS の psradm (1M) コマンドを使用して余分な CPU スレッドをオフラインし、CPU スレッドの数を 1CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、すべての奇数の CPU スレッドをオフラインにするなどです。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6348554	以下のカードで cfgadm -c disconnect コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	影響のあるカードでは、cfgadm -c disconnect を実行しないようにしてください。 パッチ 126670-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com を確認してください。
6449315	Solaris の cfgadm(1M) コマンドが、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ上のドメインから DVD ドライブを構成解除しません。	Volume Management Daemon (vold) を無効にしてから、cfgadm(1M) コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。vold を無効にするには、コマンド /etc/init.d/volmgt stop を発行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド /etc/init.d/volmgt start を発行してデーモンを再起動します。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6459540	DAT72 内蔵テープドライブがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。 また、デバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;</pre> "SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6472153	SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバ以外のサーバ上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それを Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。これは、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> この作業は 1 回だけ実行してください。
6498283	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR の deleteboard コマンドを使用すると、システムがパニックすることがあります。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6508432	偽の PCIe エラー (修正可能なもの) が FMA エラーログに大量に記録されることがあります。	このようなエラーをマスクするには、/etc/system に次のエントリを追加し、システムをリブートします。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre> このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6510779	大規模なシングルドメイン構成上で、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCI2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre> このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6520990	ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 処理がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次の記述を <code>/etc/system</code> に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします。 <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre> 複数のドメインで物理ボードを共有していない場合、この回避方法は必要ありません。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6522017	同じドメインで DR と ZFS の両方を使用することはできません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、Sun Service にお問合せください。
6522433	リブート後の CPU 障害によって、 <code>fmdump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	現時点で回避方法はありませぬ。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6527781	2 つのドメイン間を DVD/DAT ドライブを移動するときに、 <code>cfgadm</code> コマンドで障害が発生します。	回避方法はありませぬ。DVD/ テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインで <code>reboot -r</code> を実行してください。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6527811	XSCF 上で <code>showhardconf(8)</code> コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	回避方法はありませぬ。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。
6530178	DR の <code>addboard</code> コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	回避方法はありませぬ。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6531036	<code>boot net</code> によるインストール後に、エラーメッセージ <code>network initialization failed</code> が繰り返し表示されます。	回避方法はありませぬ。
6533686	2 つのドメインが物理ボードを共有している場合、エラー状態が発生する可能性があります。	複数のドメインがボードを共有している場合、この共有ボード上で同時に DR を使用しないでください。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	次の <code>/etc/system</code> パラメータが正しいことを確認し、システムをリブートします。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre>
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) が存在する場合には、リポート中にドメインのパニックが発生する確率は低くなります。 この欠陥は、Solaris 10 11/06 のみに発生しません。	このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。 回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。 パッチ 125670-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com を確認してください。
6539909	<code>boot net install</code> コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	Solaris 10 11/06 を実行している場合は、代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6545143	<code>kcage</code> デーモンが <code>kcage</code> 領域を拡張している場合、拡張された領域内にユーザースタックが存在すると、その領域はマップ解除され、 <code>flushw</code> ハンドラ実行中に <code>ptl_1</code> パニックの原因となることがあります。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	<code>/etc/system</code> で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。 <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	以下のカードでホットプラグ (<code>cfgadm</code>) と DR 操作 (<code>addboard</code> および <code>deleteboard</code>) を実行すると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 の場合、パッチ 127741-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。 Solaris 10 11/06 の場合、パッチ 125670-04 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6551356	<p>これまで未設定だったカードを設定するために hotplug (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこの不具合の影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>I/O カードを外すために <code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。カードを完全に取り外すには、<code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 分以上待ってから、<code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。</p> <p>Solaris 10 8/07 の場合、パッチ 127741-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。</p>
6556742	<p>DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	<p>metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。あるいは、パッチを適用できます。</p> <p>パッチ 125166-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、コンソール上に、「nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn」という形式のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>これらのメッセージは無視して差し支えありません。</p> <p>Solaris 10 8/07 の場合、パッチ 127741-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。</p>
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	<p>カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。</p> <p>パッチ 127750-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。</p>

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6564332	Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバがパニックまたはハングするおそれがあります。	SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは実行しないでください。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。
6564934	以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順についての詳細は、ifconfig の man page を参照してください。 パッチ 127741-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。
6568417	CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	/etc/system に次の行を追加し、システムを再起動してください。 set ip:ip_soft_rings_cnt=0 パッチ 127111-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com を確認してください。
6571370	実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	/etc/system に次の行を追加し、システムを再起動してください。 set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0 Solaris 10 8/07 の場合、パッチ 127741-01 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。 Solaris 10 11/06 の場合、パッチ 125670-04 があるかどうか http://sunsolve.sun.com で確認してください。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6572827	SPARC Enterprise M8000/M9000 プラットフォームでは、 <code>prtdiag -v</code> からの出力の IO Devices セクションの列の 1 つが「Type」です。これは、各デバイスを「PCIe」、「PCIx」、「PCI」、または「UNKN」と報告します。この値の計算に使用されるアルゴリズムが正しくありません。PCI-X リーフデバイスを「PCI」、レガシー PCI デバイスを「UNKN」と報告しています。	回避方法はありません。
6575970	DR と XSFC のフェイルオーバーが不整合です。	DR 処理の進行中は、XSFC フェイルオーバーを起動しないでください。DR 処理が終了するのを待ってから、フェイルオーバーを開始します。先にフェイルオーバーを開始した場合は、フェイルオーバーが終了してから、DR 処理を開始します。
6583035	CMU をホットプラグするために <code>addfru</code> コマンドまたは <code>replacefru</code> コマンドを使用した後、DR のために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示され、以降の DR 処理が失敗することがあります。	<code>addfru</code> および <code>replacefru</code> コマンドを実行するときは、診断テストを必ず実行してください。 <code>addfru/replacefru</code> の実行時に診断テストの実行を忘れた場合には、 <code>testsrb</code> を実行して CMU をテストするか、 <code>deletefru</code> コマンドを実行して CMU/IOU を減設してから、診断テスト付きで <code>addfru</code> コマンドを実行します。
6584984	<code>-w</code> を指定して <code>busstat (1M)</code> コマンドを実行すると、ドメインが再起動されることがあります。	回避方法はありません。 <code>-w</code> オプションを指定して <code>busstat (1M)</code> コマンドを <code>pcmu_p</code> で実行しないでください。
6588555	XSFC のフェイルオーバー中に永続メモリ DR 処理を実行すると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 処理の進行中は、XSFC フェイルオーバーを起動しないでください。DR 処理が終了するのを待ってから、フェイルオーバーを開始します。先にフェイルオーバーを開始した場合は、フェイルオーバーが終了してから、DR 処理を開始します。
6589546	<code>prtdiag</code> は、次のカードのすべての IO デバイスを表示するわけではありません。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	完全出力には <code>prtdiag -v</code> を使用してください。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6589644	<p>addboard コマンドを発行して SB をシステムに追加するとき、メインコンソールパスに関する情報がその SB 上の SRAM にありません。</p> <p>このため、XSCF は XSCF の切り替えが発生した場合にコンソールパスを認識できません。</p>	<p>回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6589833	<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状態で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6592302	<p>DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。</p>	<p>addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻し、復旧することができます。</p>

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> - showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

      board      perm      base      domain      target deleted remaining
DID XSB  mem MB  mem MB  address  mem MB  XSB  mem MB  mem MB
00 00-0   8192     0 0x0000000000000000    24576
00 00-2   8192   1674 0x000003c000000000    24576
00 00-3   8192     0 0x0000034000000000    24576

...
```

4 列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674 MB のカーネルメモリが 00-2 にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合に deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

XCP 1050 以降へのアップグレードの準備

アップグレード前に実行することが必要な手順が2つあります。

1. lan#0 インターフェースおよび lan#1 インターフェース (フェイルオーバーインターフェース) 上で設定されたルートをすべて削除する。

注 - ネットワーク設定がまったく変更されていなければ、`applynetwork -n` コマンドは実行できません。ホスト名を現状に正しくリセットすると (`sethostname`)、コマンドの実行が求められます。

以下の例は、削除が必要な2つのルートを示しています。

```
XSCF> applynetwork -n
The following network settings will be applied:
xscf#0 hostname      :m8000-0
xscf#1 hostname      :m8000-1
DNS domain name     :sun.com
nameserver           :100.200.300.400

interface            :xscf#0-lan#0
status               :up
IP address           :100.200.300.77
netmask              :255.255.254.0
route                :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1

interface            :xscf#0-lan#1
status               :down
IP address           :
netmask              :
route                :

interface            :xscf#0-if
status               :down
IP address           :
netmask              :

interface            :lan#0
status               :down
IP address           :
netmask              :
route                :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1
route                :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.2
```

```

interface      :xscf#1-lan#0
status        :down
IP address    :
netmask      :
route        :

interface      :xscf#1-lan#1
status        :down
IP address    :
netmask      :
route        :

interface      :xscf#1-if
status        :down
IP address    :
netmask      :

interface      :lan#1
status        :down
IP address    :
netmask      :
route        :

The XSCF will be reset. Continue? [y|n] :n
XSCF> setroute -c del -n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.2 lan#0
XSCF> setroute -c del -n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1 lan#0
XSCF> applynetwork

```

最後の `applynetwork` には、リセットと処理の継続のため「y」を応答します。

2. 「admin」という名前のアカウントをすべて削除してください。

すべての XSCF アカウントの一覧を表示するには `showuser -lu` コマンドを使用してください。XCP 1050 以降にアップグレードする前に、`admin` という名前のアカウントをすべて削除する必要があります。このアカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。アカウントの削除には `deleteuser` コマンドを使用します。

注 `-admin` アカウントの詳細については、表 5, 28 ページの「ソフトウェアマニュアルの変更予定」を参照してください。

XCP 104x から XCP 1050 以降へのアップグレード

注 - 「引継ぎ IP アドレス」 経由で XSCF ユニットにアクセスしないでください。

注 -XSCF のリセット時に、LAN 接続は切断されます。XCP アップグレード手順を簡素化するため、XSCF のシリアル接続を使用することを推奨します。

1. プラットフォーム管理権限があることを確認の上、アカウント上の XSCF#0 にログインします。
2. `showstatus` コマンドを使用して、障害のあるコンポーネントや設定解除されたコンポーネントがないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

システムの初期化時に障害が見つからなければ、`showstatus` プロンプトが返ります。リストに何かが表示された場合、次の手順に進む前に、公認の保守担当者に連絡してください。

3. すべてのドメインの電源をオフにします。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレーターパネルのキーの位置を **Locked** から **Service** に戻します。
6. 今後の参考情報としてシステムの状態のアーカイブをとるため、XSCF スナップショットを収集します。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. `getflashimage` コマンドを使用して、XCP 1060 アップグレードイメージをアップロードします。

```
XSCF> getflashimage http://server.domain.com/XCP1060/images/DCXCP1060.tar.gz
```

XSCFU#0 上の BUI を使用することにより、XCP 1060 アップグレードイメージをアップロードすることができます。

8. `flashupdate (8)` コマンドを使用して、ファームウェアを更新します。



注意 `-Flashupdate` は1つのバンクを更新し、XSCF をリセットしてから、次のバンクの更新を開始します。現用バンクと待機バンクがどちらも更新されていることを確認します。両方のバンクが XCP リビジョン 1060 を示している場合には、次の手順に進みます。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1060
```

アップデートする XCP の版数を指定します。この例では 1060 です。

9. 更新の完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

XCSF_B#0 の更新中に異常が発生しないことを確認します。

10. XSCFU#0 の現用バンクと待機バンクの両方が更新後の XCP バージョンを表示していることを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#0 (Active )
XCP0 (Reserve): 1060
XCP1 (Current): 1060
XSCF#1 (Standby)
XCP0 (Reserve): 0000
XCP1 (Current): 0000
```

XSCF#0 の現用バンクと待機バンクが XCP リビジョン 1060 を示していない場合には、公認の保守担当者に連絡してください。

11. 新規に導入された「servicetag」機能が有効であることを確認します。

システムが XCP 104x から XCP 1050 以降にアップグレードされるとき、新規に導入された「servicetag」機能は自動的に有効になりません。

- a. 「showservicetag」 CLI を使用することにより、「servicetag」機能のステータスを確認します。

```
XSCF> showservicetag
Disabled
```

- b. 現在無効になっている場合には、有効にすることが必要です。

```
XSCF> setservicetag -c enable
Settings will take effect the next time the XSCF is rebooted.
```

- c. 「servicetag」機能を有効にするには XSCF のリブートが必要です。

```
XSCF> rebootxscf
The XSCF will be reset. Continue? [y|n] :y
```

注 - サービスタグは Sun Service が使用します。富士通のお客様がサービスタグを有効にすることはできません。

- d. XSCF ファームウェアの準備が整うまで待ちます。

これは、XSCF 上の READY LED が連続点灯になっていること、またはシリアルコンソール上にメッセージ「XSCF Initialize Complete」の表示により確認できます。

12. サーバのすべての電源スイッチを 30 秒間オフにします。

13. 30 秒後、電源スイッチをオンに戻します。

14. XSCF ファームウェアの準備が整うまで待ちます。

これは、XSCF_B#0 と XSCF_B#1 上の READY LED がどちらも連続点灯になることから確認できます。

15. シリアル接続または LAN 接続を使用して、XSCFU#0 にログインします。

16. showlogs error -v および showstatus コマンドを使用することにより、異常の発生がないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

XSCF のハードウェア異常を検出した場合には、公認の保守担当者に連絡してください。

17. インポートされた XCP イメージを確認し、再度更新します。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1060
```

アップデートする XCP の版数を指定します。この例では 1060 です。XSCF#1 が更新され、次に XSCF#0 が再度更新されます。

XSCF#0 のファームウェア更新が終了すると、XSCF#1 がアクティブになります。

18. シリアル接続または LAN 接続を使用して、XSCFU#1 にログインします。

19. `showlogs event` コマンドを使用することにより、更新の完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

更新時に異常が検出されなかったことを確認します。

20. XSCFU#0 の現用バンクと待機バンクの両方が更新後の XCP バージョンを表示していることを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#1 (Active )
XCP0 (Reserve): 1060
XCP1 (Current): 1060
XSCF#0 (Standby)
XCP0 (Reserve): 1060
XCP1 (Current): 1060
```

XSCF#0 の現用バンクと待機バンクが XCP リビジョン 1060 を示していない場合には、公認の保守担当者に連絡してください。

21. XSCF の切り替えが正常であることを確認します。

```
XSCF> switchscf -t Standby
```

```
The XSCF unit switch between the Active and Standby states.
Continue? [y|n] :y
```

- a. XSCFU_B#1 上の READY LED が連続点灯であれば、シリアル接続または LAN 接続を介して XSCFU#0 にログインします。

b. 次のコマンドを使用して、XSCF の切り替えを確認してください。

```
XSCF> showhardconf
```

XSCF#1 が現在は待機であり、XSCF#0 がアクティブになったことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

手順 16 での確認以降、新規のエラーが記録されていないことを確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

「XSCFU entered active state from standby state (XSCFU が待機状態からアクティブ状態になりました)」というメッセージを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

「No failures found in System Initialization (システム初期化時に障害は検出されません)」というメッセージを確認します。

22. すべてのドメインの電源をオンにしてください。

```
XSCF> poweron -a
```

23. XSCFU#0 にログインし、すべてのドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

24. 新規のエラーが発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

- 異常が検出された場合には、適切な処置を実行し、担当の当社技術員に連絡してください。
- 異常が検出されなかった場合は、手順 25 に進みます。

25. オペレーターパネルのキーの位置を Service から Lock に戻します。

WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバをブートできるようにするには、次の手順を実行します。

1. WAN ブートサーバに Solaris 10 11/06 OS をインストールします。
2. 本リリースから、インストールサーバ上の適切な場所に実行可能ファイル wanboot をコピーします。詳しい方法については、『Solaris 10 インストレーションガイド：ネットワークベースのインストール』または次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh65?a=view>

3. Solaris 10 11/06 OS から WAN ブート miniroot を作成します。詳しい方法については、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh63?a=view>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバは次のようなメッセージを表示して、パニックします。

```
krtld:load_exec:fail to expand cpu/$CPU
krtld:error during initial load/link phase
panic - boot:exitto64 returned from client program
```

WAN ブートの詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh5i?a=view> を参照してください。

getflashimage の簡易版 man page

XCP 105x ではコマンド getflashimage を使用して、XSCF Web の代わりにファームウェアイメージをダウンロードすることができます。

ソフトウェアマニュアルの変更予定

この項には、ドキュメントが出版された後に判明した、ソフトウェアマニュアルの最新情報が記載されています。

表 5 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに関するすべてのマニ ュアル		すべての DVD という表記は、CD-RW/DVD-RW に読み替えてください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイ ド	9-5	XSCF Web がサポートする Web ブラウザには次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Internet Explorer 6.0 以降• Firefox 2.0 以降• Mozilla 1.7 以降• Netscape Navigator 7.1 以降
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイ ド	2-2	「XSCF Shell によるセットアップの要約」の項。次の注を追加します。 <p>注：標準的なデフォルトのログインのほかに、SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバでは、<i>admin</i> と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したりリモート初期ログインが可能になります。その権限は <i>useradmin</i> 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <i>admin</i> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログインのために追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 <i>admin</i> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 <i>admin</i> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <i>admin</i> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>

表 5 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイ ド	D-5	<p>「Troubleshooting XSCF and FAQ」のよくある質問 (FAQ)</p> <p>OS ダンプのオプションは「request」ではなく「panic」です。</p> <p>誤記：</p> <p>1. まず、XSCF シェルから panic オプションで reset(8) コマンドを実行します。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバアドミニストレーショ ンガイド	2	<p>「Solaris OS ソフトウェア」の項。次の注が追加されました。</p> <p>注 :XSCF ファームウェアでは、すべてのドメインに SUNWscckmr および SUNWscckmu.u パッケージが必要です。Solaris OS の Core System、Reduced Network、および Minimal System バージョンの場合、これらパッケージは自動的にインストールされません。これらパッケージがインストールされていないすべてのドメインにインストールする必要があります。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバアドミニストレーショ ンガイド	8	<p>「システムへのログイン」の項。次の注を追加します。</p> <p>注：標準的なデフォルトのログインのほかに、SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバでは、<i>admin</i> と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したりリモート初期ログインが可能になります。その権限は <i>useradmin</i> 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <i>admin</i> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログインのために追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 <i>admin</i> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 <i>admin</i> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <i>admin</i> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>

表 5 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバアドミニストレーションガイド	66	<p>「設定監査」の項。「ファイルツールの監査」の終わりに注を追加します。</p> <p>注: この章ではアーカイブされたログファイルをセットアップする方法について説明します。管理者とサービスプロバイダーは、SP Security (SUNWspec) Package を使用することにより、このログファイルを表示することができます。使用サーバにアーカイブされた XSCF 監査ログファイルを表示するには、<code>viewauditapp(8)</code> および <code>mergeaudit(8)</code> オフプラットフォーム監査ファイルビューワーを使用します。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	setpowerupdelay(8) の man page	<p>次の説明を詳細説明に追加します。</p> <p>オペレーターパネルから電源を投入すると、設定した待ち時間とウォームアップ時間は無視されます。これらを設定して、起動時に使用したい場合は、<code>poweron(8)</code> コマンドを実行してください。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	setupplatform(8) の man page	<ul style="list-style-type: none"> -p user オプションには <code>useradm</code> 権限が必要です。 -p network オプションには <code>platadm</code> 権限または <code>fieldeng</code> 権限が必要です。 -p altitude オプションには <code>platadm</code> 権限が必要です。 -p timezone オプションには <code>platadm</code> 権限が必要です。